

CHIBA

CHIBA

CHIBA

CHIBA

安嶋健太郎
Kentaro AJIMA

ラフマニノフ : ロマンズ へ短調 作品10の6
ショパン : バラード第1番 ト短調 作品23

千葉県立幕張総合高校を経て、東京音楽大学ピアノ演奏家コース卒業、及び同大学研究生修了。在学中から多くのコンクールで入賞・入選を果たし、1998年にデビュー・リサイタルを開催。その後は国際音楽祭への出演を含め、多くの国内外の演奏家とも共演し、室内楽や伴奏においても高い評価を得ている。2008年には室内楽や協奏曲を含めた「デビュー10周年記念演奏会」、2013年にはベートーヴェンの3大ソナタ(悲愴、月光、熱情)を中心とした「デビュー15周年記念演奏会」を開催し、専門誌上でも好評を博した。2016年からはラフマニノフのソロ作品を全て網羅する「ラフマニノフ・プロジェクト」を開始するなど、精力的な演奏活動を展開している。後進の指導にも積極的に取り組んでおり、洗足学園音楽大学でピアノ科講師をつとめるほか、コンクール審査や専門家を志す学生を対象にしたマスタークラスなども行っており、門下生からは多くのコンクール入賞者、音楽大学合格者を輩出している。現在までに長みさ、下野寛子、三浦捷子、大高智子、津田真理の各氏に師事。洗足学園音楽大学、及び大学院講師。一般社団法人全日本ピアノ指導者協会(ビティナ)正会員。公益財団法人ピアノ教育連盟会員。楽友協会ちば副理事長。

<http://www.ajima88.com/>

浦山純子
Junko URAYAMA

ショパン : 舟歌 嬰へ長調 作品60
ショパン : 幻想即興曲 嬰ハ短調 (遺作)

桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒業後、1994年ポーランド国立ワルシャワショパン音楽院に留学。1995年ラジヴィウ国際ピアノコンクール優勝、及び最優秀ショパン賞(ポーランド)、1998年ボリーノ国際ピアノコンクール最高位(イタリア)をはじめとする数々の賞を受賞。1996年よりロンドンを拠点とし、名門ウィグモアホールにてデビュー。ヨーロッパ各国でソロリサイタル、コンチェルトから室内楽に至るまで幅広く活動し、2002年にはウラディミール・アシュケナージ指揮フィルハーモニア管弦楽団とグリーグのピアノ協奏曲を共演。同年フィルハーモニア管弦楽団に再び招かれ、チチェスター音楽祭にて演奏。2005年に帰国した後は全国各地で演奏活動を展開するほか、国内外で教育・福祉関係のためのチャリティ活動にも力を入れている。これまでにシンフォニカレコード(イギリス)、ソニーミュージックダイレクトから5枚のCDをリリースしている。浅野繁、奥村洋子、安川加壽子、アンジェイ・ステファンスキ、スラミタ・アロノフスキ各氏に師事。スタインウェイ・アーティスト。

<http://www.junkourayama.com/>

木村徹
Toru KIMURA

ショパン : 幻想ポロネーズ 変イ長調 作品61
ラフマニノフ : バガニーニの主題による狂詩曲 作品43より 第18変奏(木村徹編曲)

桐朋女子高校音楽科(共学)を経て、桐朋学園大学ピアノ科を首席で卒業。1984年、第3回新人音楽コンクール・ピアノ部門第1位。第1回「音楽現代新人賞」の優秀賞。1997年、ルーマニアに於いて、国立トゥルグムレシュ交響楽団との共演が好評を博し、以後度々招聘され、特に1999年の特別演奏会ではスタンディング・オベーションの熱狂的な成功となった。杉山裕美氏、森安芳樹氏などに師事。エリック・ハイデシェック氏のレッスンも数度に渡って受ける。3枚のソロCD「木村徹ピアノリサイタル」(ライヴ・ノーツ/WWCC7420・7532・7768)は各誌で推薦され大好評を得ているが、第一集の「幻想小曲集(シューマン作曲)」、第二集の「変奏曲(シマノフスキ作曲)」はハイデシェック氏から特段の賞賛を受けた。また、第二集は毎日新聞「今月の私の3枚」に選ばれ「レコード芸術」で準特選盤となった。声楽家、弦楽器奏者との共演CDも発売されている。幼少から即興演奏・作曲等を独学で習得し、15歳の時に作曲した4楽章制のピアノソナタ(嬰ハ短調/第3楽章はフーガ)が残っている。また、数年前に千葉県立高州小学校の校歌を依頼され作曲。現在、桐朋学園大学講師。ピアノ実技、初見、室内楽を指導している。

植原祥子
Shoko KUSUHARA

ショパン : ワルツ第2番 変イ長調 作品34の2「華麗なるワルツ」
ショパン : バラード第3番 変イ長調 作品47

桐朋女子高校音楽科、桐朋学園大学音楽学部ピアノ専攻卒業。ポーランド国立ワルシャワショパン音楽大学研究課程修了。ベラ・シキ国際ピアノコンクール第1位。日本各地で演奏活動を行うほか、ヤマハ千葉主催「植原祥子のショパン・ピアノ・リサイタル」シリーズでは堪能な語学力を生かし、ショパンの生涯と作品についてレクチャー。ポーランド作品のオーソリティとして高い評価を得ている。ポーランドではブスコフ・ショパン国際音楽祭で毎年リサイタルで行うほか、ワルシャワ、ショパンの生家など各地でのリサイタル。ラジオ・グダニスクでマズルカを録音。2005年よりポーランド国際夏期音楽祭で講師をつとめる。ドイツ・バンベルグでのモーツァルト協奏曲、シドニー他11都市でのリサイタル。また、ルブリンでのタマラ・グラナット氏との「Duo Granat」など海外でも活発な演奏活動を展開している。高柳明子、有賀和子、林秀光、イェジ・スリコフスキ、ヘッセ・ブコフスカ各教授に師事。桐朋学園大学音楽部非常勤講師。日本ショパン協会正会員。日本ピアノ教育連盟中央運営委員。ビティナ正会員表参道パワーステーション代表。三善晃ピアノメソッドMiyoshi Net運営委員。

<https://www.shokokusuhara-pianoschool.com/>

實川風
Kaoru JITSUKAWA

ショパン : ノクターン第13番 ハ短調 作品48の1
ショパン : ポロネーズ第6番 変イ長調 作品53「英雄ポロネーズ」

千葉県出身。東京藝術大学音楽学部首席卒業。同大学大学院(修士課程)修了。2007年ショパン国際コンクールin ASIA一般部門金賞、ビティナ・ピアノコンペティション特級銅賞・聴衆賞。東京ニューシティ管との共演で上海音楽祭に出演。2008名古屋国際音楽コンクール第1位・聴衆賞・ピクチャー賞・名フィル賞。第77回日本音楽コンクールピアノ部門第3位。2008年度ヤマハ支援制度奨励学生。2011年名古屋名駅ロータリークラブ椿賞。2013年サザンハイランド国際ピアノ・コンクール第2位(オーストラリア)。2015年第3回日本ショパンコンクール第1位。ロン＝ティボー＝クレスパン国際コンクール、ピアノ部門第3位(1位なし/フランス)。上海音楽祭、ソウル国際音楽祭、ノアン・ショパンナイト(フランス)に出演。全国各地のサロンやホールでのリサイタル活動の他、弦楽器・管楽器奏者との共演も重ねている。これまでに、ポーランド国立クラクフ室内管弦楽団、キャンベラ交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉などと共演。山田千代子、御木本澄子、多美智子、江口玲の各氏に師事。

米津真浩
Tadahiro YONEZU

ショパン : バラード第4番 へ短調 作品52

千葉県千葉市出身。千葉県立幕張総合高校を経て、東京音楽大学ピアノ演奏家コース卒業。同大学院を首席で修了。2009年度、同大学ティーチングアシスタント。大学院修了後、異例の若さで母校である東京音楽大学にて非常勤助手として後進の指導に当たったが、更なる研鑽を積むため、2013、2014年度ローム・ミュージックファンデーション奨励学生としてイタリアの名門イモラ音楽院へ留学。2007年第76回日本音楽コンクールピアノ部門で第2位入賞。岩谷賞(聴衆賞)を受賞。東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉、東京音楽大学ブレイジングオーケストラと共演。ソロ、室内楽、アンサンブル等の演奏活動、音源・記事提供の他、ボランティア活動。後進の指導にも積極的に力を注ぐ。リサイタル以外にも、テレビドラマ「花より男子」の吹き替え、X JAPANディナーショーピアノ担当、仙台クラシックフェスティバルに2011年・2012年と続けて出演。これまでに寺田栄子、高梨淳子、村上隆、弘中孝、L.マルガリタスの各氏に師事。また、M.ラエカッリオ、P.ネルセシアン、S.ドレンスキー、A.サッツ、M.ペロフ、D.ヨッフ、B.リグット、V.リヤードフ、B.ゲツケ、T.ゼリクマン、B.ベトルシャンスキー、P.ドヴァイヨンといった世界的なピアニスト・教授陣の指導を受ける。

<http://www.tadahiro-yonezu.com/>

Piano Gala Concert 2016

上記のソロ作品のほか、連弾などのアンサンブル作品の演奏も予定しています。プロフィールは演奏順ではありません。